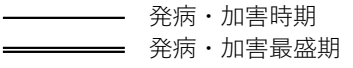
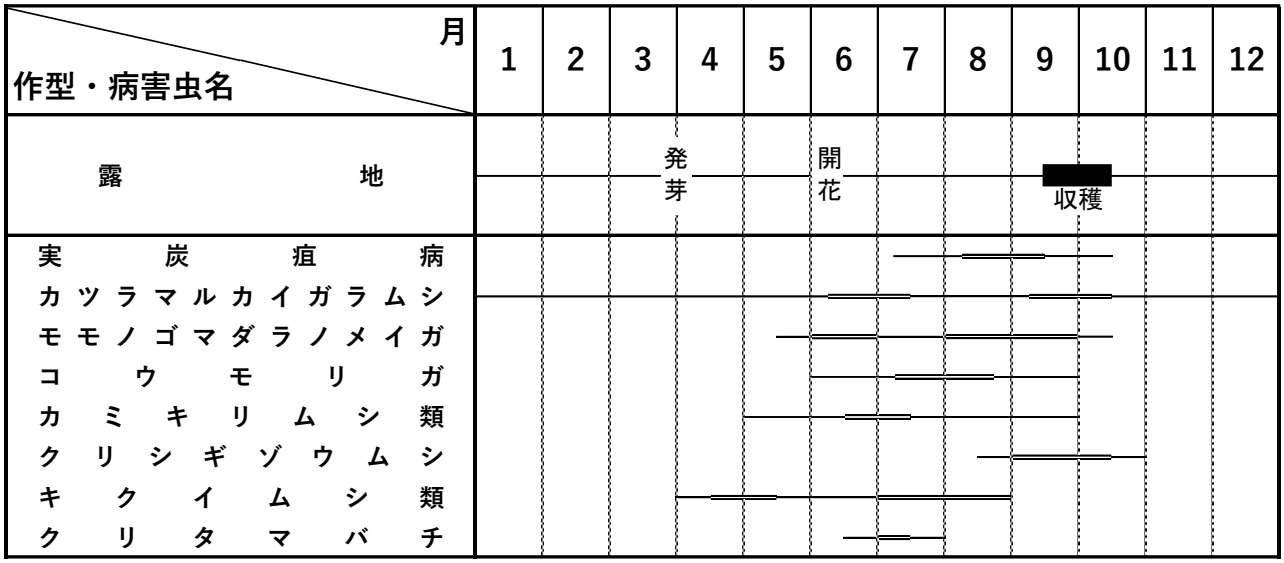
くり





胴枯病

留意事項

1 害虫（キクイムシ類、カミキリムシ類など）の食入痕や傷口から病原菌が侵入することが多い。
2 早期発見、早期処理に努める。
3 密植園や樹勢が衰えた園では発病が多くなる。

防除方法

1 苗木は無病のものを用いる。
2 なるべく浅植えにする。
3 凍害や乾燥を防ぐため高接苗の使用、根際への土盛り、幹へのわら巻き、施肥の適正化などを図り、健全な樹体に育てる。
4 被害枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。
5 日焼け防止のため、石灰乳などを太枝や幹に塗布する。
6 病患部を削り取り下記の薬剤を塗布する。

・トップジンMペースト　＜１＞【原液　病患部削り取り直後／3回】

実炭疽病（みたんそびょう）

留意事項

1 早生種に発病が多い。
2 クリタマバチ、クリイガアブラムシの加害は発病を助長する。

防除方法

1 枝葉を適度にせん定し、密生を防ぐ。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 ＜１＞【2000～3000倍　裂果前(収穫14日前)／4回】

カツラマルカイガラムシ

留意事項

1 樹高を低くして（カットバック）薬剤散布をしやすいようにする。

2 冬期防除に重点を置く。

3 本種が多発すると枝葉が褐色となり、枯死する。

防除方法

1 12月中～下旬または、発芽前まで（3月中旬）に下記の薬剤を散布する。

・機械油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【落葉果樹(除ぶどう)　カイガラムシ類　12～14倍　－／－】

・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　カイガラムシ類　7～10倍　発芽前／－】

2 幼虫発生期（第1世代：6月下旬～7月中旬、第2世代：9月中旬～10月中旬）に下記の薬剤を散布する。

・エルサン乳剤 劇 ＜１Ｂ＞
【カツラマルカイガラムシ若齢幼虫　1000倍　14日／4回】

・アプロード水和剤 ＜１６＞【カイガラムシ類幼虫　1000倍　7日／2回】

モモノゴマダラノメイガ

留意事項

1 パダンSG水溶剤は、眼及び皮膚に強い刺激があるので注意する。

防除方法

1 果実収穫後、いがを集めて、ほ場外に持ち出し処分する。

2 幼虫ふ化期（8月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。

・フェニックスフロアブル ＜２８＞【4000倍　前日／2回】

・ディアナWDG ＜５＞【10000倍　前日／2回】

・エルサン乳剤 劇 ＜１Ｂ＞【1000倍　14日／4回】

・パダンSG水溶剤 劇 ＜１４＞【1500倍　裂果前／3回】

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000倍　7日／3回】

コウモリガ

留意事項

1 薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。

2 ガットサイドS、サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 4月～5月頃雑草を刈り取って園内を清潔にする。

2 食入孔に針金などをさし込んで、幼虫を殺す。

3 5月～6月上旬に下記の薬剤を散布または塗布する。

・ガットサイドS ＜１Ｂ＞

【2倍　樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布　裂果前(収穫90日前)／1回】または

【1(原液)～1.5倍　樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布　裂果前(収穫90日前)／1回】

・サッチューコートSセット ＜１Ｂ＞

【15倍　樹幹部及び主枝に散布又は塗布　幼虫食入期直前～幼虫食入初期(収穫90日前)／1回】

カミキリムシ類

留意事項

1 薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。

2 サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内(但し、樹幹処理は1回以内)。

防除方法

1 カミキリムシ類の産卵期～幼虫発生期（6月～7月）に下記の薬剤を散布または塗布する。

・サッチューコートSセット ＜１Ｂ＞

【50倍　樹幹部及び主枝に散布又は塗布　産卵時期(収穫60日前)／1回】

2 幼虫食入期に食入孔内へ下記の薬剤を注入する。

・ロビンフッド　＜３Ａ＞

【果樹類(除かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、オリーブ)　樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射　前日／5回】

クリシギゾウムシ

留意事項

1 防除方法の「1」はクリミガと共通である。クリミガは地表面近くでまゆを作って越冬する。

防除方法

1 冬季に、いが、落葉、せん定枝、枯草などを、土中深く埋没するなどして園を清潔にする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 成虫発生期（9月上旬～10月上旬）に下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000倍　14日／5回】

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　7日／3回】

キクイムシ類

留意事項

1 薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。

2 ガットサイドS、サッチューコートSセットの成分MEPの総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）。

防除方法

1 寒害や日焼けを起こさないようにし、樹勢をよくする。

2 越冬成虫食入期（4月～5月）に下記の薬剤を散布または塗布する。

・ガットサイドS ＜１Ｂ＞

【1.5倍　樹幹の地際部から約1.5mの高さまで散布
3月～5月(産卵初期)／1回】または

【1(原液)～1.5倍　樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布
3月～5月(産卵初期)／1回】

・サッチューコートSセット ＜１Ｂ＞

【15倍　樹幹部及び主枝に散布又は塗布　産卵時期(収穫90日前)／1回】

クリタマバチ

防除方法

1 天敵寄生蜂（チュウゴクオナガコバチ）を放飼する。

2 天敵寄生蜂（チュウゴクオナガコバチ）は3月～4月に羽化するので、せん定枝を羽化時期まで残して寄生蜂を保護する。

3 せん定を行い樹勢を強く保つ。

4 成虫発生期（6月下旬～7月中旬）に下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【1000～2000倍　羽化脱出期(収穫14日前)／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。